科目名	がん看護学演習Ⅲ	分野・必選別・単位数	専門科目（がん看護学）	選択	2単位

担当教員	◎教授　南川雅子						
課程	博士前期	配当年次	1年または2年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	緩和ケアが必要な患者のトータルペインに対して包括的な支援を提供するための、がん看護専門看護師としての看護介入の方法を探求する。
授業の到達目標	1. 緩和ケアの概念について理解し、トータルペインを緩和するための看護について概説することができる。 2. 症状マネジメントの基本と看護師の役割について説明できる。 3. がんに伴う身体症状・精神症状について、病態に基づいたアセスメントと援助のあり方について説明できる。 4. がん患者のスピリチュアルペインのアセスメントと、援助のあり方について説明できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	南川　雅子　教　授	緩和ケアの基本 緩和ケアの概念、歴史と現状、トータルペインについて説明できる。
2	南川　雅子　教　授	症状マネジメント① 症状マネジメントモデル、症状マネジメントにおける看護師の役割について説明できる。
3	南川　雅子　教　授	症状マネジメント② 症状マネジメントモデル、症状マネジメントにおける看護師の役割について説明できる。
4	南川　雅子　教　授	症状マネジメント③ 症状マネジメントモデル、症状マネジメントにおける看護師の役割について説明できる。
5	南川　雅子　教　授	がん性疼痛のマネジメント① がん性疼痛発生のメカニズムとアセスメント、緩和のための看護援助について説明できる。
6	南川　雅子　教　授	がん性疼痛のマネジメント② がん性疼痛発生のメカニズムとアセスメント、緩和のための看護援助について説明できる。
7	南川　雅子　教　授	緩和ケアが必要な患者のスピリチュアルケア がん患者にみられるスピリチュアルペインのアセスメント、緩和のための看護援助について説明できる。
8	南川　雅子　教　授	緩和ケアにまつわる倫理的課題と調整 緩和ケアにまつわる倫理的課題にはどのようなものがあるのか学び、調整方法について説明できる。
9	南川　雅子　教　授	緩和ケアにおける看護介入の検討① 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。
10	南川　雅子　教　授	緩和ケアにおける看護介入の検討② 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。
11	南川　雅子　教　授	緩和ケア演習① 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての実践における各自の課題を検討し、フィールド演習を通して明確化する。
12	南川　雅子　教　授	緩和ケア演習② 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての実践における各自の課題を検討し、フィールド演習を通して明確化する。
13	南川　雅子　教　授	緩和ケア演習③ 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての実践における各自の課題を検討し、フィールド演習を通して明確化する。
14	南川　雅子　教　授	緩和ケア演習④ 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての実践における各自の課題を検討し、フィールド演習を通して明確化する。
15	南川　雅子　教　授	フィールド演習計画発表 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法を発表し、ディスカッションを通して臨床に適用可能なものとして洗練させる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	看護介入の方法を検討するための文献検討、理論やエビデンスの検討を、主体的に進める。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	随時紹介する。
参考書	随時紹介する。
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションと質疑応答50％、レポート50％により評価する。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2およびDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。